

文久三年十一月二十四日より文久三年十一月廿八日まで

P8311059 right

申聞く再登城の上、其の段演白す、右書翰は持帰り五郎禮藏を招き翻訳
為取懸から、且清書の為め明朝鉢^三太郎を呼上げ歎^く□半過御用済

廿五日辰 晴

早天鉢太郎来り昨事の書類清書替時出来、出 殿、前件書類持出進達、藤山より栄転賀として
魚五尾贈り越せし旨、木村より鉦児方へ菓一袋贈越せし旨、五郎次来り馬上砲丸と鑢(かん)を
持参

贈りし旨、寺山襖(ふすま)類張替に来り呉、山本(長)来る、富沢(大)頼置の儀による

廿六日巳 雪意午下晴

本日清水亭へ 御移徙(*)被遊五半時御登城也、風邪に付頼合状出す、富沢へ小三■

遣し昨夕牛込よりの報■【文字判読不可】■趣を告げ、且過日の器へ葛粉、霜糖を入れ遣す、

永持風邪の趣に付

過日の器を返し■割烹品を贈り訪問す、柳亭来り鉦児へ菓一袋を贈り六曲屏の画竹 並石

P8311059 left

葉の賛語を乞ふ、一橋画手本に進、持参、袖時計直し□来にて渡し遣す、一泊、藤山小君菓袋
手遊を

携へ鉦児尋問■【文字判読不可】■設く

廿七日午 晴

痾を養う為め頼合、寺山経師来り呉、金港大野(清)より心願書を添、親戚中根長左衛門差越

金糖

一笥贈り越す、黄窪よりりう小品持参、泊宿、医道玄来る、せき女来る一杯を勧む、山崎(龍)

太左衛門よりの老書北行進達書類持参

廿八日未 晴

河内守殿、早朝亭(プロイセン)公使□出府上陸とも差留方等の儀に付、御直書を以縷々

被仰越、書類は

既に三郎、太郎方より廻達有し段をも被仰越に付、即時御請を出し三郎太郎方へ御直書を添

其段

文通および処、肥州出張の積り申合添定の旨、返書来る、寺山昨同様にて来る、鉦児痘瘡

結願

*□移徙(わたまし)、貴人の転居

(○)内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。